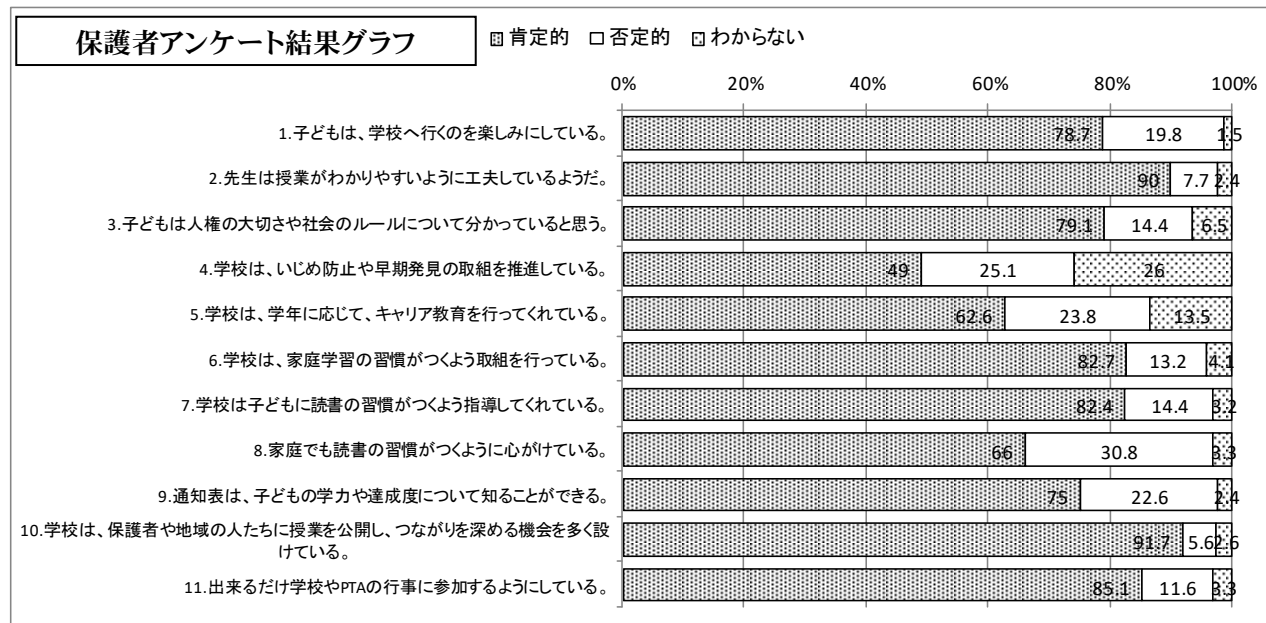
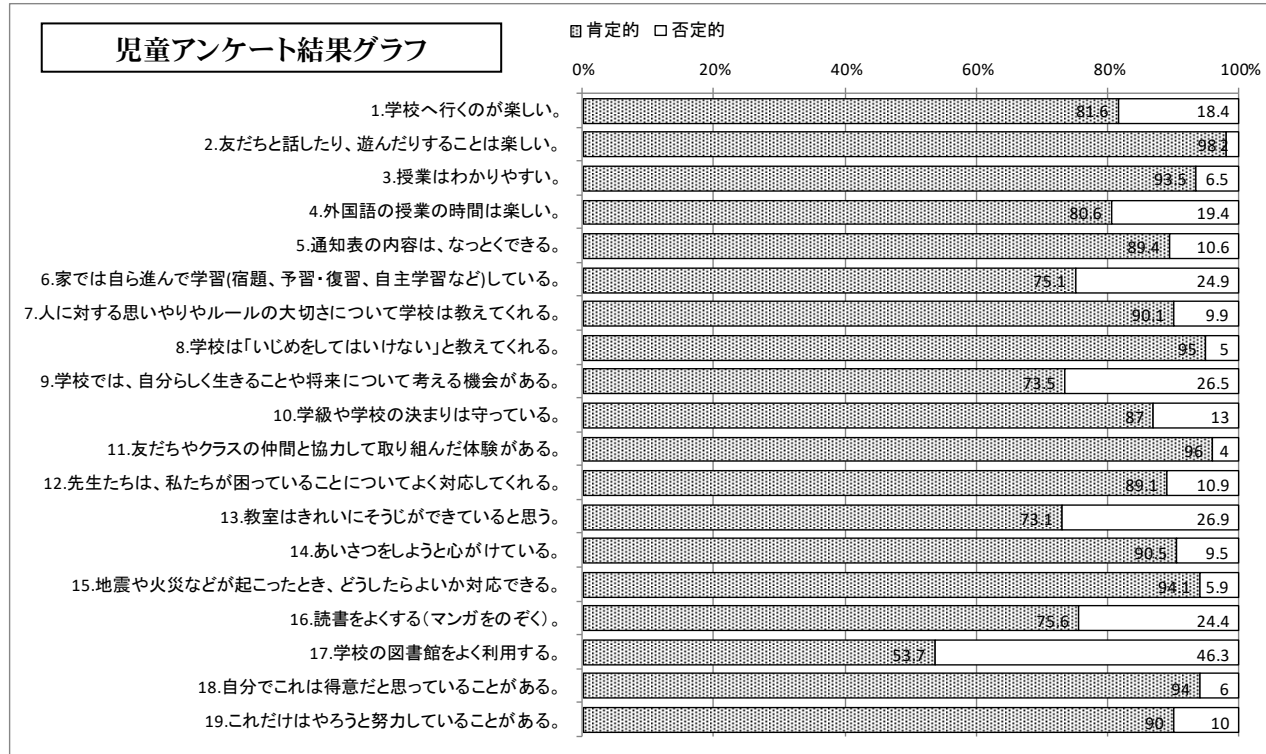


学校教育アンケートへのご協力、ありがとうございました。その結果について報告します



この結果をもとに、考えたこと、感じたことをお伝えします。

1. 学校は子どもたちにとって居心地のいい場所になっているでしょうか

児童「1.学校へ行くのが楽しい」は 81.6%の児童が肯定的回答をしていました。H28 年度より 7 ポイント増加しています。各学級で落ち着いて学習したり遊んだりすることができている人が増えていると思われまます。保護者「1.子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」の肯定的回答は児童よりもやや少ない結果でした。4・5・6 年の児童と 4・5・6 年の保護者の結果を比べると、10 ポイント以上児童の数字が上回っています。子どもたちは楽しく学校に行っています。態度や表情、家での話からはなかなかうかがい知れないところがあるという実態があるように思われます。

子どもたちの思いを支えているのは、児童「2.友達と話したり遊んだりすることは楽しい」の 98.2%の肯定的回答です。楽しい学校生活は、友だち同士の良好な人間関係に支えられた学級や地域にあると言えます。ただし、その数字に表れてこない個別の課題に十分に目を向けることが必要だと思います。

2. わかる・できるようになる授業づくり

子どもたちが学校で最も長い時間を過ごすのは授業です。この時間がいかに有意義なものになるかは大きなポイントです。児童「3.授業はわかりやすい」は 93.5%、保護者「2.先生は授業がわかりやすいように工夫しているようだ」は 90%の肯定的回答でした。肯定的にみている児童・保護者が多いのは、学校としてもありがたいことだと思います。また、児童「6.家では自ら進んで学習している」の肯定的回答は 75.1%であり、昨年度より 11 ポイント上昇しました。家庭学習を促すための強化週間を設けるなどの取り組みなどを通して、「宿題をきっちりしよう」と意識した児童が増えるという効果があったのかもしれない。

今後も基礎基本的な内容は着実に身につくようにしていきます。授業中の確認に加えて、家庭学習による定着も必要だと考えています。また、授業の中で言葉を使って書く、話す、聞くなどの活動を取り入れ、より授業が活性化するよう工夫していきたいと考えています。

3. いじめの未然防止、適切な対応はできているでしょうか

児童「7.人に対する思いやりやルールの大切さについて学校は教えてくれる」は 90.1%、児童「8.学校は『いじめ』をしてはいけない」と教えてくれる」は 95%、児童「12.先生たちは私たちが困っていることについてよく対応してくれる」は 89.1%の肯定的回答でした。

保護者「4.学校はいじめ防止や早期発見の取組を推進している」では、「わからない」が 26%、否定的回答は 25.1%でした。保護者のみなさまにとっては取組が見えにくいことが多いかと思えます。

子どもたちの人間関係に配慮しつつ、学級でのできごとについていったん立ち止まって全員で考えたり、もめごとについては事実を聞き取った上でお互いが納得できるように場づくりを行うように心がけたりしています。過去の反省をもとに、情報を学校の中で共有して、日々の細かいやりとりや発生時の対応について改善を図っています。また、「いじめについて考えよう」をテーマに、全校集会で児童会役員が絵本の読み聞かせをしました。一つの学校で一年間いじめがないということは、学校がその存在に気づいていないだけです。いじめが限りなく 0 に近づくよう努力を続けてまいります。

校長 加藤 武